

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2009-528880

(P2009-528880A)

(43) 公表日 平成21年8月13日(2009.8.13)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 3 B 23/00 (2006.01)	A 6 3 B 23/00	Z
A 6 3 B 23/04 (2006.01)	A 6 3 B 23/04	Z
A 6 3 B 23/12 (2006.01)	A 6 3 B 23/12	

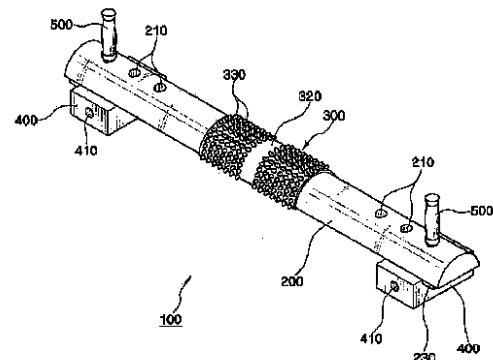
審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2008-558189 (P2008-558189)	(71) 出願人	508269569 キム、ジュング バエ 大韓民国 742-080 ギェオングサ ングブクド サングジュシ、セオムン ードング、76(25/1)、サングサン マンション B-105
(86) (22) 出願日	平成19年3月5日(2007.3.5)	(74) 代理人	100071054 弁理士 木村 高久
(85) 翻訳文提出日	平成20年9月5日(2008.9.5)	(74) 代理人	100149087 弁理士 中川 康子
(86) 国際出願番号	PCT/KR2007/001078	(72) 発明者	キム、ジュング バエ 大韓民国 742-080 ギェオングサ ングブクド サングジュシ、セオムン ードング、76(25/1)、サングサン マンション B-105
(87) 国際公開番号	W02007/102681		最終頁に続く
(87) 国際公開日	平成19年9月13日(2007.9.13)		
(31) 優先権主張番号	20-2006-0006109		
(32) 優先日	平成18年3月7日(2006.3.7)		
(33) 優先権主張国	韓国 (KR)		

(54) 【発明の名称】 健康運動器具

(57) 【要約】

本発明は、表面に多数の結合孔と結合溝を形成し、底面にストッパを具備した支持台と、上記支持台の結合溝に結合されるように底面に結合突起を形成し、上面には指圧部を形成した指圧板と、上記支持台のストッパ側に設置され、支持台の高さ調節可能に結合孔を形成した受け台と、上記支持台と受け台の結合孔に結合される取っ手と、を含んでなされる健康運動器具を提供する。



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

表面に多数の結合孔 2 1 0 と結合溝 2 2 0 を形成し、底面にストッパ 2 3 0 を具備した支持台 2 0 0 と、
前記支持台 2 0 0 の結合溝 2 2 0 に結合されるように底面に結合突起 3 1 0 を形成し、上面には指圧部を形成した指圧板 3 0 0 と、
前記支持台 2 0 0 のストッパ 2 3 0 側に設置され、支持台 2 0 0 の高さ調節可能に結合孔 4 1 0 を形成した受け台 4 0 0 と、
前記支持台 2 0 0 と受け台 4 0 0 の結合孔 2 1 0、4 1 0 に結合される取っ手 5 0 0 と、
からなることを特徴とする健康運動器具。

10

【請求項 2】

前記指圧板 3 0 0 の指圧部は、中央部分に空間部 3 2 0 を形成し、空間部 3 2 0 の両側には多数の指圧突起 3 3 0 を形成したことを特徴とする請求項 1 に記載の健康運動器具。

【請求項 3】

前記指圧板 3 0 0 の指圧部は、指圧板 3 0 0 の上面の両側に弧形状の指圧面 3 4 0 を形成し、指圧面 3 4 0 の中央には空間部 3 2 0 を形成したことを特徴とする請求項 1 に記載の健康運動器具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

20

本発明は、健康運動器具に関し、特に、硬直された脊椎、胸骨、肩関節、脹脛、太股などの関節部位と周辺筋肉を弾力的に弛緩及び鍛練させるので、誤った姿勢、関節部分で発生できるディスク、五十肩などの疾患を予防したり改善を期待することができる健康運動器具に関する。

【背景技術】**【0002】**

一般に、脊椎は 2 4 個の椎骨で構成されているものであって、脳脊髄神経を通過しており、個々の椎骨は椎骨軟骨で連結されるので、活動するに便利に成されており、椎骨と椎骨との間には椎間孔が形成されている。このような椎空間は脳脊髄神経が通過される空間であって、各組織や機関に連結されて神経エネルギーを伝達し、統制及び管理するようになるが、これによって上体の体重を突っ張る人体の大梁の役目をする。

30

【0003】

また、脊椎は曲げて伸ばす運動により上 / 下肢と共に各種作業を遂行する関節の役目をし、中枢神経である脊髄と末梢神経の神経筋の通路の役目をするのは勿論、生存のために人間の体に必ず必要とされる無機質であるカルシウムの貯蔵庫の役目もする。

【0004】

このような脊椎は側面から見て正常に S 字形態に屈曲をなしているが、これは身体の運動力学的な面において非常に重要な役目をし、このような脊椎は上から 7 個の頸椎、1 2 個の胸椎、5 個の腰椎、そしてお尻部位の薦椎及び尾椎からなっている。

【0005】

40

したがって、多くの現代人は高度化した文明の生活方式と各種便宜によって、座って業務を見たり、運転をする等の生活方式が普遍的になされており、このような座式生活習慣によって肩が片方に過度に傾いているとか長時間腰を曲げた状態で業務を見る場合をしばしば見ることができる。

【0006】

特に、運動が足りない現代人は同じ姿勢で長時間業務を見たり、運転などによって、脊椎、首、肩、胸部などの関節に多くの無理をもたらしたり、異常を起こすことになるが、このような誤った姿勢や座式生活は、ディスク、五十肩、関節痛など、種々の疾患の主な要因となる。

【0007】

50

したがって、大部分の現代人はこのような疾患を未然に防止または改善するために、物理治療、矯正治療、手術、薬物などの方法を利用しているが、脊椎、肩関節などに関連した種々の疾患は、誤った姿勢と無理な関節の使用がその原因であるので、これを解消しない手術や薬物による方法はその実効性が微小であった。

【 0 0 0 8 】

そして、物理治療や矯正治療の場合には、手術などの方法より副作用や効果面で優れる部分があるが、これのためには物理治療施設や矯正治療施設が完備した病院などの特定の場所へ相当期間通院しなければならない不便さが発生され、また物理治療や矯正治療に多くの費用を支出しなければならないという問題点が発生した。

【 0 0 0 9 】

また、このような物理治療や矯正治療、またはこれと類似の運動器具の場合には、大部分機械的装置器具であって、価格が高価であり、体積が大きくて、一般人が家庭などの狭い場所で容易に使用できないという問題があった。

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 0 】

本発明は、前述したような従来の諸問題を解決するために案出したものであって、本発明の目的は、硬直された脊椎、肩、脛脛、太股などの関節を弾力的に弛緩及び鍛練させるので、ディスク、五十肩のような疾患を予防することができる健康運動器具を提供することにある。

【 0 0 1 1 】

本発明の他の目的は、脊椎のうち、4、5番の頸椎を弾力的に弛緩及び鍛練させるので、健康を図ることができる健康運動器具を提供することにある。

【 0 0 1 2 】

本発明の更に他の目的は、一般人が家庭などで容易に、かつ簡便に使用可能な健康運動器具を提供することにある。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 3 】

上記の目的を達成するための本発明の健康運動器具は、表面に多数の結合孔と結合溝を形成し、底面にストッパを具備した支持台と、上記支持台の結合溝に結合されるように底面に結合突起を形成し、上面には指圧部を形成した指圧板と、上記支持台のストッパ側に設置され、支持台の高さ調節が可能であるように結合孔を形成した受け台と、上記支持台と受け台の結合孔に結合される取っ手を含んでなることを特徴とする。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明の健康運動器具は、押さえられ、硬直された脊椎を弾力的に弛緩及び鍛練させるので、腰をしっかりと、ディスクなどの疾患を予防及び改善する効果を期待することができる。

【 0 0 1 5 】

また、本発明の健康運動器具は、多様な使用方法により肩筋肉をほぐしたり鍛練できるので、五十肩のような疾患を予防及び改善し、腹部を指圧及びストレッチングできるので、臓器と筋肉を刺激するので、新陳代謝が活発になされるようにする効果も期待することができる。

【 0 0 1 6 】

そして、本発明の健康運動器具は、太股、脛脛などの他の部分もストレッチング及び鍛練できるので、運動器具として活用できる効果があり、さらに単純な構造であるので、生産コストを格段に低減し、狭い場所で容易に使用可能で、かつ保管も容易な有用な効果が得られる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 7 】

以下、本発明の好ましい実施形態を添付された図面を参照しつつ説明すれば、次の通りである。

【 0 0 1 8 】

図 1 は本発明の健康運動器具を示す分離斜視図であり、図 2 は組み立てられた状態の健康運動器具を示す斜視図であって、本発明の健康運動器具 1 0 0 は、大別して、支持台 2 0 0、指圧板 3 0 0、受け台 4 0 0、及び取っ手 5 0 0 からなる。

【 0 0 1 9 】

まず、支持台 2 0 0 は、使用者の背を支えながら脊椎などの関節を弛緩及びストレッチングするものであって、その形状は半球断面の半円柱で形成し、上部周り面の両側と中央部には結合孔 2 1 0 と結合溝 2 2 0 を各々形成し、底面の両側にはストッパ 2 3 0 を形成する。

10

【 0 0 2 0 】

指圧板 3 0 0 は使用者の脊椎などの関節を弛緩及びストレッチングする時にクッションを提供しながら指圧の役目もするものであって、底面の両側には結合突起 3 1 0 を形成して前述した支持台 2 0 0 の結合溝 2 2 0 に結合されるようにする。そして、上面の中央には空間部 3 2 0 を形成し、空間部 3 2 0 の両側には多数の指圧突起 3 3 0 を形成する。

【 0 0 2 1 】

また、指圧板 3 0 0 は、前述した指圧突起 3 3 0 の以外に図 5 で図示したように、弧形状の指圧面 3 4 0 を持つ指圧板 3 0 0 を使用することもできる。

【 0 0 2 2 】

20

受け台 4 0 0 は支持台 2 0 0 を支えながら支持台 2 0 0 の高さを調節できるものであって、高さ調節可能であるように複数の面に結合孔 4 1 0 を形成して、支持台 2 0 0 の底面の両側のストッパ 2 3 0 に引っかかるように位置させる。この際、支持台 2 0 0 の結合孔 2 1 0 と受け台 4 0 0 の結合孔 4 1 0 は、同一な直線上に位置するようになる。

【 0 0 2 3 】

そして、受け台 4 0 0 は、滑りが防止できるように、外部にゴム材質のコーティング層を形成したり、ホットメルト (Hot Melt)などを塗布することも可能である。

【 0 0 2 4 】

取っ手 5 0 0 は、前述した支持台 2 0 0 に設置されるものであって、支持台 2 0 0 の上面の両側に形成した結合孔 2 1 0 に結合して、支持台 2 0 0 と受け台 4 0 0 の結合孔 4 1 0 に嵌められるようになり、これを通じて支持台 2 0 0 と受け台 4 0 0 とを結合させる役目もする。

30

【 0 0 2 5 】

このように構成された本発明の作用及び効果を添付された図面を参照しつつ詳細に説明すれば、次の通りである。

【 0 0 2 6 】

図 2 乃至図 4 a で図示したように、本発明の健康運動器具は、両取っ手 5 0 0 を把持した状態で、使用者の背を支持台 2 0 0 の指圧板 3 0 0 に位置させた後、徐々に支持台 2 0 0 の周り面に沿って押圧するので、押さえられた脊椎を弛緩させる等のストレッチングをすることができる。

40

【 0 0 2 7 】

この際、指圧板 3 0 0 の指圧突起 3 3 0 は、使用者の身体の荷重を緩衝する役目を遂行すると共に、脊椎付近の筋肉を刺激させて鍛える役目を遂行し、指圧板 3 0 0 の空間部 3 2 0 は脊椎が位置される溝であって、脊椎が使用者の身体の荷重により集中的に押さえられることを防止して、より便利なストレッチングがなされるようにする役目をする。

【 0 0 2 8 】

特に、ストレッチングがなされる使用者の脊椎は、腰椎 4、5 番に該当する部分であって、通常、ディスクのような疾病が最もよく発生される部分であり、支持台 2 0 0 を用いたストレッチングは 4、5 番腰椎を弛緩及び鍛練させるので、ディスクなどの疾患を予防及び改善する効果を期待することができる。

50

【 0 0 2 9 】

また、本発明の健康運動器具 1 0 0 は、取っ手 5 0 0 を把持した状態で支持台 2 0 0 に背をもたれた状態の姿勢を取る場合に、背と腰を真っ直ぐに伸ばしてくれる役目をするので、五十肩のような肩疾患を予防及び改善する効果を期待することができる。

【 0 0 3 0 】

図 3 a 及び 3 b は図 2 の支持台 2 0 0 より高さがより高まった状態を示すものであって、図 3 c は受け台 4 0 0 を除去するので、図 2 の支持台 2 0 0 より高さがより低くなった状態を示すものである。図示したように、本発明の健康運動器具 1 0 0 は、受け台 4 0 0 の他の結合孔 4 1 0 を取っ手 5 0 0 に結合させるので、支持台 2 0 0 の高さを容易に調節することができ、これによって、脊椎の筋力が強化された使用者に、より強化されたストレッチング効果を提供できるようになる。

10

【 0 0 3 1 】

さらに、本発明の健康運動器具 1 0 0 は、使用者の上体の位置を上下に移動してストレッチングするので、腰椎の以外に頸椎から尾椎まで幅広く脊椎をストレッチング及び鍛練させることができ、これによって、使用者の脊椎を全般的に鍛練させることができる。

【 0 0 3 2 】

そして、本発明の健康運動器具 1 0 0 は、図 4 a のように、下体を上下に持ち上げたり下りる動作を繰り返すので、腰椎と薦椎及び尾椎をストレッチングさせながら鍛練させることができる。

20

【 0 0 3 3 】

図 4 b は、首部分のストレッチング例であって、受け台 4 0 0 を除外した支持台 2 0 0 を略 4 0 ° 傾けた状態の場合、木枕のような用途に使用可能である。したがって、使用者が横に臥すと、頭の自重により上部頸椎と耳付近の筋肉をストレッチングさせ、鍛練させることができる。

【 0 0 3 4 】

図 4 c は、腹部ストレッチング例であって、受け台 4 0 0 の上に腹部を押してやりながら左右や前後に若干ずつ移動させるので、腹部の臓器を刺激して新陳代謝が円滑になされるように図ることができる。

【 0 0 3 5 】

図 4 d は、太股部分のストレッチング例であって、受け台 4 0 0 の上に太股部分を載せた後、脚をさらに広げたり、前後に若干ずつ移動させながらストレッチングさせることができる。

30

【 0 0 3 6 】

一方、このような本発明の実施形態は、好ましい一例の説明に過ぎないものであって、本発明の適用範囲はこれに限定されるのではない。一例として、たとえ本発明で例示してはいないが、指圧板は足裏指圧用にも使用可能であり、太股の以外に脛脛などのストレッチングなど、人体の多様な部分をストレッチング及び鍛練させることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 7 】

【 図 1 】 本発明の健康運動器具を示す分離斜視図である。

40

【 図 2 】 組み立てられた状態の健康運動器具を示す斜視図である。

【 図 3 a 】 受け台により支持台の高さを高く設定したり、受け台を除去して支持台の高さを低めた例を示す使用状態図である。

【 図 3 b 】 受け台により支持台の高さを高く設定したり、受け台を除去して支持台の高さを低めた例を示す使用状態図である。

【 図 3 c 】 受け台により支持台の高さを高く設定したり、受け台を除去して支持台の高さを低めた例を示す使用状態図である。

【 図 4 a 】 本発明に係る健康運動器具の使用状態図である。

【 図 4 b 】 本発明に係る健康運動器具の使用状態図である。

【 図 4 c 】 本発明に係る健康運動器具の使用状態図である。

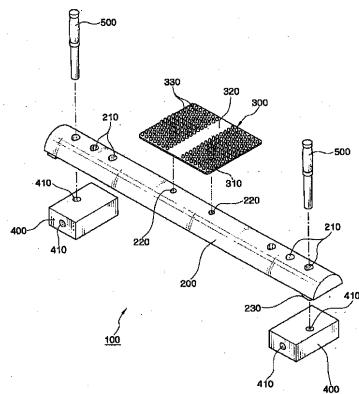
50

【図 4 d】本発明に係る健康運動器具の使用状態図である。

【図 5】本発明の健康運動器具に備えられる指圧板の他の例を示す斜視図である。

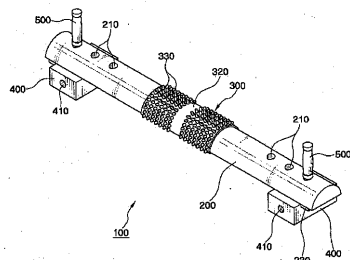
【図 1】

【Figure 1】



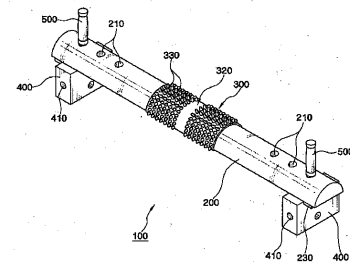
【図 2】

【Figure 2】



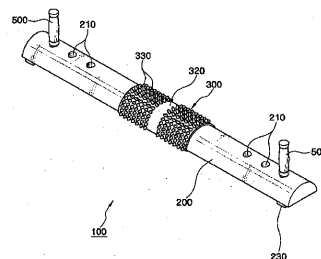
【図 3 A】

【Figure 3A】



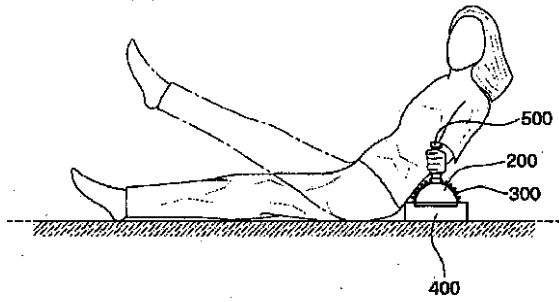
【図 3 B】

【Figure 3B】



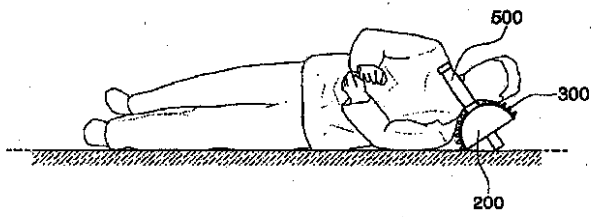
【図 4 A】

【Figure 4A】



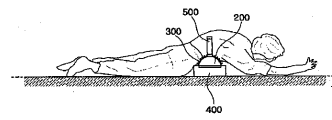
【図 4 B】

【Figure 4B】



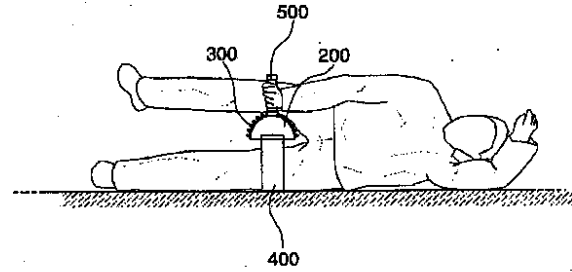
【図 4 C】

【Figure 4C】



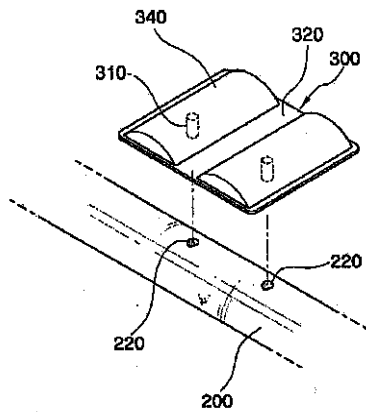
【図 4 D】

【Figure 4D】



【図 5】

【Figure 5】



【 国際調査報告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No. PCT/KR2007/001078
A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER		
<i>A63B 23/02(2006.01)i</i>		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) IPC8 A63B 23/02, A61H 15/00, A61H 1/02		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Korean Utility models and applications for Utility models since 1975 Japanese Utility models and application for Utility models since 1975		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) eKIPASS(KIPO INTERNAL), Keyword : sport		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000116817 A (UKAI TETSUYA) 25 April 2000 see the claim 1 and figures 1-3	1-3
A	JP 10216266 A (IKEDA KIKAI SEKKEI:KK) 18 August 1998 see the claims 1-5 and figures 1,6	1-3
A	KR 200384409 Y1 (JO, BOUNG DEOK) 6 May 2005 see the claims 1-4 and figures 1-5	1-3
A	KR 200349648 Y1 (SY TECH. CO., LTD) 27 April 2004 see the claims 1-8 and figures 1-9	1-3
☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☒ See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 26 JUNE 2007 (26.06.2007)		Date of mailing of the international search report 26 JUNE 2007 (26.06.2007)
Name and mailing address of the ISA/KR  Korean Intellectual Property Office 920 Dunsan-dong, Seo-gu, Daejeon 302-701, Republic of Korea Facsimile No. 82-42-472-7140		Authorized officer SEO, Il Ho Telephone No. 82-42-481-5997 

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No.

PCT/KR2007/001078

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
JP 2000116817 A	25.04.2000	None	
JP 10216266 A	18.08.1998	None	
KR 200384409 Y1	06.05.2005	None	
KR 200349648 Y1	27.04.2004	None	

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), EP(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MT, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SV, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW